

川崎市長選アンケート(上)

※上から届け出順

26日投開票の川崎市長選で、神奈川新聞社は各候補に主要な政策や市政課題との向き合い方についてアンケートを行い、3回に分けて紹介する。初回は「最も訴えたいこと」と「現市政の点数とその理由は」。

(川崎市長選取材班)

最も訴えたいことは

現市政の点数と理由

 國谷 涼太氏	<p>私は「若者・子育て世代から選ばれるまち」「ビジネスのまち」「いつでも、いつまでも安全・安心のまち」を目指し、それらを圧倒的なスピードで着実に実行するための組織づくりとして「市民のために働く市役所」を目指します。今後は川崎においても人口減少が進むことが予測されている中、30年後も現役世代の私だからこそ、強い責任と覚悟を持ってさまざまな課題に挑戦し、未来を見据えた社会づくりに取り組みます。</p>	<p>【60点】新型コロナウイルス感染症への対応や市制100周年という節目でもある中、この4年間、人口は増え、税収も増えてきたという点において、「マイナス局面ではない」という意味で福田市長による市政は一定程度評価しています。</p>
 野末 明美氏	<p>物価高騰などで市民の暮らしは大変です。さらに川崎市民にとっては、川崎市政の子育て支援策の遅れ、市民の暮らし支援策の遅れ、中小事業者への支援策の遅れは深刻で、東京との『多摩川格差』は広がる一方です。川崎市には政令市トップの豊かな財源があります。不要不急の大規模開発をやめ、市民の子育て・暮らし・福祉最優先の予算に回します。市民生活最優先。市民の皆さんと、いつまでも住みたいまち川崎をつくります。</p>	<p>【10点】市民の声を聞かず、大規模開発優先の市政を3期12年続け、子育て支援策の遅れ・市民の暮らし支援策の遅れ・中小事業者への支援策の遅れが深刻になつてあり、地方自治体の基本理念である『住民福祉の増進』という自治体の大切な役割を果たしていないからです。</p>
 福田 紀彦氏	<p>この10年で市内中小企業の黒字法人数は倍増し、女性の就業率は約3割増加、税収も3割以上増加するなど着実に成長を遂げてきた川崎を、市民・事業者の皆さんと共に安心で魅力ある都市へとすべく挑戦を続けます。本市は臨海部の土地利用転換を控えるなど、100年に1度とも言える転換期を迎えていますが、これをチャンスと捉えて産業をさらに活性化し、さまざまな分野で前例にとらわれない好循環を生み出していくきます。</p>	<p>【点数は無回答】市民・事業者の皆さんにとって何が必要かを常に考え、社会経済環境の変化にも柔軟に対応してきました。取り組みの成果については、常に市民の皆さんによる厳しいチェックを受けることが大切であるため、その評価は市民の皆さんや議会の判断に委ねたいと思います。</p>
 山田 瑛理氏	<p>「川崎の今に応えたい」です。市民の暮らしには「今、どうにかしてほしい」ことがたくさんあります。多選による市政の硬直で、市民の声が届きにくくなっている現実を市議の6年間で感じました。大型開発も大切ですが、その一方で後手となっている道路渋滞やJR南武線の混雑、街中の安全対策など暮らしに直結した基盤整備を立て直し、挑戦できる環境と暮らしの安心・都市の力が両立する川崎を実現します。</p>	<p>【50点】子育て支援の拡充がされた部分は評価しますが「国の責任」として進まぬ施策も多く、多文化共生の理念は大切ですが、進め方に市民理解を欠いた面もあります。「今に不満はない」ではなく、誰もが誇れる100点の川崎を私は目指します。</p>
 関口 実氏	<p>イスラエルによるパレスチナ人の大量虐殺、ロシアによるウクライナ侵略、ミャンマーの軍事政権による民衆の殺りく。沖縄における繰り返される米兵による性暴力。川崎に住む在日の女性に防刃チョッキを着させる社会。これらを川崎市民にとって関係ない問題とすることは、私にはできない。川崎で何ができるか、考えたい。市民との話し合いによって「みんなが幸せになれる差別のない川崎」をつくっていきたい。</p>	<p>【50点】ヘイトスピーチを罰則付きで規制する条例の存在は評価するが、被害者の苦しみが解決されたとは言い難い。成人せん息患者医療費助成制度を廃止して、被害者を切り捨てた。市のイベントで自衛隊の飛行機を飛ばさせた。これらは評価できない。</p>

おごとわり
川崎市長選に立候補している宮部龍彦氏については、経歴や出馬に当たっての主張に著しい差別的言動があり、差別が拡散する恐れがあるため、異なる扱いとしております。